

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500368		
法人名	特定非営利活動法人 トライアングル・サークル		
事業所名	グループホーム たんぼぼの家	ユニット名	
所在地	長崎県大村市東野岳町1800-2		
自己評価作成日	平成26年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年1月28日	評価確定日	平成26年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>恵まれた自然にかこまれて、子供達から高齢者まで、ゆっくりと自分らしく、地域のなかで、安心して生活していただく。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成13年に開設した“たんぼぼの家”では、各居室の床の張り替えも行われ、掃除も綺麗に行われている。ご利用者同士の助け合いもあり、他の方のミカンの皮をむいてあげたり、食事の時にティッシュを取ってあげるなど、まさに理念にある“共に暮らす”姿が日常の中で見られている。職員の入れ替わりも経験する中、新しい職員が合流し、レクなどを楽しむ機会も増えている。管理者(看護師)が職員の意見を尊重する姿勢は変わらず、その環境の中で職員の観察力も増しており、日々のケアに関するアイデアも多い。自立に向けた支援が着々と進められ、入居時に車いすを利用されていた方が歩行できるようになった方もおられ、職員も嬉しく思っている。日々の食事は職員が手作りしており、郷土料理の大村寿司も喜ばれている。地元のレストランでバイキングを楽しまれたり、四季折々のお花見にも行かれており、今後も“楽しむ”機会を増やし、役割を持って生活して頂ける環境を作っていく予定にしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に、理念を読み上げ、毎日の業務につなげている。	「ゆっくりと 自分らしく 共に暮らす」という理念には、地域の人々、子供達や家族の人々といつまでも気軽に触れ合える[家]と言う意味も込められている。看護師・介護職などの専門知識と経験を持ったスタッフの支援をうけながら、安心して暮らせる[家]を目指し、職員の意見交換を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけ、近隣の人達と挨拶をかわし、交流に努めている。	消防団の方が運営推進会議のメンバーになって下さり、避難訓練も参加して下さいました。敬老会では地域の方が日本舞踊や楽器演奏をして下さり、楽しいひと時になっている。地域の「松原くんち」に参加した時は焼き物や相撲を見学し、野岳の茶市や彼岸花まつりにも出かけている。今後も、町内会への参加を検討予定にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会などの行事を通して、また、ホーム見学にこられた方に、パンフレットをわたす。日常生活などについて、説明し、理解していただくように、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題に利用者様のケアの実際、課題を取り上げ、そこでの意見をサービス向上に活かすように努めている。	隣の「たんぼぼ憩いの家」と合同で会議をしており、その時期に応じた流行の病気の特徴や対応方法の報告が行われている。嚥下困難の方のトロミ食の試食も行われ、「口当たりも良く美味しかった」という感想を頂いた。25年3月から消防団の方も参加して下さい、今後も町内会長などへの声かけを続けていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と、運営推進会議以外にも、事業所の考え方や、運営現場の実情など、積極的に伝えて、サービス向上にとりくんでいる。	市の担当者には、認定申請の手続きの他、グループホーム協議会でお会いした時にもホームの現状を伝えている。市の方とは顔馴染みであり、他の施設での火災の時、当施設の防災について相談し、防災自主点検項目表を下さった。介護相談員の訪問時には、ご利用者の情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント会議を3ヶ月に1回合同で、開催している。3施設の状況などを聞き、身体拘束廃止に取り組んでいる。	職員は身体拘束廃止等に関する研修を受け、理解を深めている。その時の感情に応じて傾聴し、お散歩にお連れする機会も作られ、穏やかに過ごされている方が多い。感情が不安定になられた時は原因を把握し、家族にも情報提供しながら対応策の検討が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の講習会には、毎回 申しこんでいる。施設での定例会に議題として取り上げ、理解を深め実践しようと努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加できる職員は限られているので、定例会の議題に取り上げ、職員の理解を深めていくようつとめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明している。また、協力医院に相談して、対応してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族会や面会時、また、ケアプランの同意書に、ご意見・ご要望を書いてもらい、運営に反映している。	暮らしぶり等を“たんぼぼ便り”で報告し、面会時にも声かけている。認知症の進行に関する心配の声も聞かれ、専門医の紹介も行われている。家族会では家族同士で会話が弾み、良い交流の機会になっている。26年度からは敬老会と別の月に家族会を行う予定にしており、家族へのアンケートもしていきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や、朝の申し送り時に、意見を聞くようにしている。	職員の入れ変わりもあったが、新しい職員も積極的で、協力体制もできている。職員は意見を言いやすく、職員からのアイデアに対しても「まずはやってみよう」と言う環境が作られている。25年10月から役職会議が再開し、職員の要望などを伝える機会になっており、職員へのアンケートも続けられ、理事長に伝えられている。	系列施設の職員全体の交流が少なく、名前を知らない職員もおられるとの事。職員同士の意見を伝える機会として、“スタッフ会議21”を再開すると共に、系列施設の応援体制を強化していければと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生費として、補助をだしてもらい、職員のストレス解消をはかっている。勤務調整をお互いにして、休みも希望にこたえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に、お互い学びあい、順番制で、研修会に参加し、定例会で、報告する。また、新人職員の指導も自主的にやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、職員の相互研修も行い、質の向上に努めている。また、管理者は、評価のためにお互いに見学にいき、現状について、意見交換をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について、必ず本人にあって、心身の状態や、本人の思いを把握し、職員が、本人に受けいられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様の苦労や、いままでのサービスの利用状況など、ご家族に直接、お会いし、話しを聞き、次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様が、今必要とされている支援を見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とのコミュニケーションを積極的に行い、早く馴染んで安心して生活して頂くよう工夫している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の生活状況など、常に伝え、ご家族様と情報交換につとめ、よりよい関係を築くように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人に遊びにきていただくように、支援している。	馴染みの関係を大切にした支援が行われている。以前、お買い物に行かれていたスーパーに職員がお連れした時には、お店の方から「お元気でしたか？」と声をかけられ、ご本人も喜ばれた。隣の通所サービスを利用する知人との交流も行われ、自宅周辺をドライブしたり、お墓参りにも家族と出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声かけて、職員と利用者様とトランプやカラオケをする。 利用者様が、みかんの皮をむいてあげたり、食事時、ティッシュをとってあげたりされる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的にはしていないが、相手から、連絡があれば、話を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用様がどこで、どのように暮らしておられたのか、何をしたいのか？日々のかかわりの中で、把握につとめている。	センター方式を利用し、生活歴を把握すると共に、ご本人と家族の要望を伺っている。日々の表情や行動、しぐさなどを大切にしており、難聴の方には筆談で意思の疎通を図っている。家族が以前の自宅の写真を貼って下さり、会話のきっかけにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用様やご家族などから、聞き取るようにしている。本人の何気ない会話や家族の訪問時など少しずつ把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、「できること」「できないこと」など暮らしのなかで、発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用様の心身状況や思い等を踏まえて、ご家族にも相談し、職員全員で、話し合い現状に即した看護計画を作成している。	長年培ってきた事や趣味なども大切に把握している。“洗濯物たたみ”“テーブル拭き”“明日の着替えの準備”などの役割と共に、リハビリの視点も盛り込まれ、個別援助計画も作られている。全介助の方も、“痛みが伴わないように介助する”などの優しい表現がされており、ご本人ができる所は具体的に記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態の変化は、個々の介護計画に沿って、ケア記録に記載し、職員間で、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援をしている。医療機関に入院されたときは、医師・看護師より情報を得て、早期退院に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が、一人で外出されたとき、地域の人に声かけをしてもらい、施設に教えて頂くようお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、協力医院の往診にて、適切な医療をうけられるように支援している。	“往診が受けられる”という事で、協力医療機関に変更される方もおられる。通院時は家族が通院介助を行い、検査時や緊急時は職員が対応し、早期治療に繋げている。医療情報提供書を作成し、往診時に医師に見て頂いており、24時間体制でホームの看護師に相談でき、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	このホームには、看護職員が、常勤しているので、常に利用者の健康管理・状態の変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、本人についての介護サマリーを医療機関に提供し、ご家族様と情報交換しながら、回復状況などを考慮し、退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居されるときに、ご家族様に説明している。再度、重度化された時点で、ご家族様に説明し、今後の方針について話し合う。	「最期はホームで・・・」と言う方が多い。管理者が看護師であり、医療機関との連携も行われ、急変時に対応できる体制が取られている。職員は救急救命法の訓練も行っており、新人職員のために、管理者が医療に関する本を購入し、職員も勉強を続けている。24年度に看取り支援が行われ、家族と共に穏やかな時間を過ごされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、消防署による応急処置や、防災訓練などの指導を定期的を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の指導のもと、地域の方々との協力を得て、避難訓練、避難経路の確認をおこなう。また、消火器の使いかたなどの訓練を定期的に行っている。	3施設合同で夜間想定訓練をしている。出火元は3施設が順々に担当し、消防署職員と民生委員が毎年参加して下さっている。地域の方や系列施設にも、ご利用者の見守りの協力依頼をしており、災害に備え、飲料水や非常食が準備されている。スプリンクラーを設置し、火災時は地域にサイレンが鳴るシステムになっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、利用者が、穏やかに生活できるよう、言葉かけや、対応に注意している。	職員は一人ひとりの生活歴や性格を把握し、ご利用者に対して優しい声かけが行われている。排泄ケア等の誘導時にも声の大きさに注意し、自尊心を傷つけないように配慮している。ミーティングなどで、職員の言動の振り返りも行われ、個人情報の管理も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が、威圧的な態度ではなく、本人が、自分の思いや希望を表せるような接し方をしよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ひとりひとりの生活のリズムを理解して、その人に合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回 散髪のサービスをうけている。毎朝、蒸しタオルで、顔を拭かれる。髭そりは、職員が、声かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の体調など考慮して、テーブル拭きをしていただく。利用者が進んで、下膳される。	3食ともホームで美味しい料理が作られ、お節料理なども手作りし、お屠蘇も楽しまれた。敷地内のつわやふき等の皮むきをして下さる方もおられ、ご利用者の誕生日には、地域のレストランでバイキングを楽しまれた。大村寿司などの郷土料理も喜ばれており、テーブルに花や葉を飾り、季節感が出るようにしている。	今後も“食事を楽しむ”支援をするために、「食べたい」と要望された時には、ご利用者も一緒に買い出しに行き、一緒に作る機会を増やす予定にしている。家庭的な雰囲気を大切にするためにも、職員も一緒に食べる機会を作っていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎回チェックして、介護記録に記入する。水分補給もゼリーやトロミなどに形態をかえて、スムーズに補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、ひとりひとりにあわせた口腔ケアを統一して行っている。口腔用スポンジやガーゼを使用している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをいかして、時間を決めてトイレに誘導して、自立にむけた支援をおこなっている。	一人ひとりの体調と共に、経済面にも配慮して、パッドの種類を検討している。小さなしぐさで尿意を察知し、職員同士の連携も行いながら、トイレでの排泄支援をしている。羞恥心にも配慮し、下着を下ろした時に見えないように、エプロントレスを着用して頂いている方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操を行う。食事では、ふかし芋や、ヨーグルトなどを提供している。便秘時には、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、きめているが、体調にあわせて、気持ち良く入浴して頂くように心がけている。	菖蒲湯やゆず湯も行われ、湯船にゆっくり浸かられている。ストレッチャーで入浴される方もおられ、事前にストレッチャーを暖房で温めたり、安心のために2人介助も行われている。皮膚の状態で個別にタオルを準備しており、できる範囲は自分で洗って頂いている。入浴を好まれない方には、定例会で声かけの仕方が話し合われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日ラジオ体操をして、生活のリズムを整えている。自室で、昼寝をされたり、ホールのソファで休まれる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬歴表を作成し、薬の効能や副作用を把握し、誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の洗濯ものたたみの手伝いや、トランプを一緒にしたり、カラオケで、気分転換をはかる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人が、隣接する施設に行き、Aさんと話をしたいと希望されれば、支援する。ご家族様が、面会にこられた時に、お話しして、協力して頂く。	ホーム周辺を散歩しながら、お花を摘まれている。時に、近所の方と会われた時は笑顔で挨拶をされている。誕生日には希望に応じて、ジャスコでの買い物やゲームなども楽しまれ、彼岸花を見に鉢巻山へ出かけたり、案山子見物、大村公園の桜見物を楽しまれている。家族の協力も頂き、自宅に帰られる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額の金銭を持っているひとは、お買い物で、飴を買ったりされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望されるときは、時間帯を考慮し、できる限りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節の飾りものをしたり、季節の花を、散歩の時つんできて、テーブルにかざる。	ホールの天窓にはステンドグラス調のフィルムを貼り、日差しの調整が行われ、折りたたみベッドを置き、休息できるようにしている。畳にはソファが複数置かれ、ご利用者同士の団樂の場となっており、カラオケも楽しまれている。トイレやお風呂場には消臭のために炭を置き、ホーム内の換気も細やかに行われている。今後はホーム外の避難口の整備も、検討予定になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関のベンチや、各居室で、思い思いにすごしてもらうように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真・自分でつくられためいぐるみなど、持ってこられ、時々、ながめておられる。	居室のドアには、バナナやめいぐるみを下げている。良い目印になっている。居室には、ご利用者と作った作品が飾られ、大切な仏壇やふるさとの写真、昔の写真、カセットテープなどが持ち込まれている。洋服掛けを持参し、外出用の洋服や帽子を掛けている方や、テレビを置き、BS配線をされている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの柵に、鈴をつけている。		